

開催日:平成21年12月7日

会議名:平成21年 福祉企業委員会

- 新型インフルエンザ等緊急対策事業について
- 子育て支援安全・安心情報システムについて

橋本紀子議員

簡単に幾つかご質問させていただきます。

子ども部のほうの新型インフルエンザ等緊急対策事業としての補正で、除菌機能つき空気清浄機が各保育所に購入されて置かれるということですが、確かに、既往症のない子どもが、今、インフルエンザで貴重な命を落とされているというようなことも新聞報道でありまして、これの対策というのは万全を期すということはよくわかっているんですけども、一方で、この除菌空気清浄機の役割というのは余り、いわゆるコマーシャルされているほどではないというような、そういう調査報告も新聞等に出てたと思うんですけども、この効果についてお聞かせいただきたいと思います。

島崎保育課長

橋本委員の、子ども部におけます保育所等でインフルエンザ等緊急対策で購入予定としている物品についてのご質問にお答えいたします。

空気清浄機につきましては、まず、加湿機能がついたものを考えております。加湿することによりまして、児童ののどや鼻の粘膜を乾燥から守る効果に加え、ウイルス等の活動を抑える効果があるとされております。もともと空気清浄機は花粉症対策等で、花粉や細菌等を吸い込み、フィルターに吸着させ、これを除去した空気を送り出す機械でございますが、さらに電子を放出するなどの技術によりまして、ウイルス表面のたんぱく質を酸化、分解することにより、除菌効果もあるとされております。

インフルエンザ等の感染症の予防に関しましては、まずは石けんでの手洗いやうがいの励行が重要であると考えております。公立、民間、認定保育施設等、すべての保育所等の施設で手洗いやうがいを実践しておりますけれども、外気温が低い冬季には、保育室内の空気を頻繁には換気できませんので、空気清浄機を補助的に使用する中で、インフルエンザ等の感染をできるだけ少なくする努力をしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

橋本紀子議員

ありがとうございます。わかりました。よく理解いたしましたので、考えられる対策というのをやはりしっかりとっていかなければならないというお立場で取り組んでいただいていると思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

それから、もう1つですけれど、先ほど来、皆さんおっしゃっています、子育て支援安全・安心情報システムなんですけれども、これについては、要望だけ申し上げたいと思います。

平成21年度の第1次補正がずっとまだ尾を引いて執行されているわけです。一部は、まだ3月まで残るといふものもあるように聞いておまして、私どもの会派としましては、9月議会が終わったときに、行政のほうに対しまして、無理に残ったものを使わなくても、当初計画があつて必要なものならともかく、あるいは雇用対策等々、ある程度の継続ならともかく、そういうことを無理に執行しないでいただきたいというようなことをご要望申し上げていたと思うんですけれども、先ほど申しましたように、まだ少し残っていて、今回も幾つか提案があつたということでございます。

本会議場の質疑も、本日のお話も、確かに順番が逆だなと私も感じていたところございまして、言うまでもありませんが、そもそも「赤ちゃんの駅」というのは、赤ちゃんとお母さんのための専用スペースのことなんです。そして、これは、ふだんからお母さんたちに接していた保育所とか児童館の職員の提案から生まれた制度だといふふうにお聞きしています。子育てママの行動範囲といふのが大変狭くなりがちなんですけれども、場所、スペースを提供することによって、出にくくなっている母子を外に出やすくするというところで、そういう場所での交流も含めて、お母さん支援になっていくといふような趣旨から始まつたといふふうに聞いているんです。私など、先ほど野々上委員の話をお聞ひしたら、やっぱり携帯電話、デジタルデバイドの世代の人間だと思ふんですけれど、そういうふうにお友だちも携帯に頼つて生活してきたわけじゃないんですが、今、ああ、そういうふうにお友だちも携帯で探すのかといふふうに思つておまして、逆に言えば、これはコミュニケーション力の低下といつて、社会問題の一つかなといふふうにも思ふわけです。実態としては、若い世代がそういうことになっているといふことですから、そういう情報提供が、この赤ちゃんとお母さんに必要なのかなといふことは理解できます。

しかし、そういうことだけじゃなく、先ほど奥田委員もおっしゃいましたように、板橋区なんかは、建物のところに「赤ちゃんの駅」といふ大きな旗が掲げられていて、町中を歩いていたら、その旗があるといふところがどんどんふえていっている。初めは84か所だつたのが、今では125か所ですから、「カンガルーの森」みたいな大きいところには当然あつたけれども、町の中にはほとんどなかつたところが、細かく網の目のように旗が広がっていくといふので、歩きながら、あ、ここも、ここも、自分たちを支援してくれているんだといふ、情報だけじゃなく、町全体で母子を応援してくれているといふ雰囲気をつくるまちづくりといふのも大事だと思ふので、順序は逆で、本当はそのスペー

スを設置して、次にそれを情報提供することなんです、たまたま予算がついて、先にこっちを整備してこれからということなんだと思います。

そういった意味では、母子を支援する温かいまちづくり、子育て応援のまちづくりということを十分視点に入れていただきまして、中身のある「赤ちゃんの駅」というのを構築していただきたいなということをお願いして、私の質問は終わります。